

「癸卯」

脚下照顧から

飛躍発展の年に

全国建築石材工業会・会長

矢橋 達郎



矢橋 達郎 氏

明けましておめでとございます。旧年中は当会の活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

ウイズ・コロナ復興元年になるかと期待した2022年でしたが、夏にこれまでと桁違いの感染者数となる感染第七波が

起こり、またしても新型コロナウイルスに大きく翻弄されました。加えて、ロシアのウクライナ侵攻による世界的な政情不安による急激な円安と原油高を受けて、日本経済と我々の生活に与って厳しく不安の多い一年でした。

私共の建築石材業界も、東京オリンピック以降の落ち込みが回復できないまま新型コロナウイルスの影響を受け、全国的に仕事量の減少が続いています。

願うものです。昨年は一昨年に続き、コロナ禍により総会・理事会も書面で行なう等、制限のある不自由な状況ではありましたが、会員の経営課題解決の一助になるよう地道に活動して参りました。

若い世代の知識向上・スキルアップの一助として、一昨年に続き昨年秋季に建築石材アドバイザー認証試験を実施いたしました。80余名の受験者があり、一般・上級合わせ49名の新しい建築石材アドバイザーが誕生しました。お客様から信頼される有資格者として、これからの活躍が期待されます。今回は提携先の日本石材産業協会と連携して

PRを図り、石産協会員の受験者数が増加しました。現場施工職の高齢化と人手不足問題は、建設業界共通の深刻な課題です。施工職の技能向上・育成のため、中央職業能力開発協会が開催する石張り技能士試験への協力を、昨年も実施しました。また、現場の働き手の受け皿のひとつとして、外国人技能実習生が特定技能外国人となり、長期にわたり日本国内の現場戦力として働ける環境を整えられるため「石材施工」が職種認定を受けられるよう、働きかける活動をしてきました。

国土交通省が推進する建設キャリアアップシステムにおいては、登録基幹技能者の講習実施機関を目指して検診準備を進めています。当会が主体となり、現場労働者の待遇改善、業界と雇用元企業の信用向上に寄与できるものと考え、前向きに進めたいと思います。近年のデジタル技術によるデジタル再現性を目を見張るものがあり、本物かプリントか、専門家でも一見では判別が難しくなっています。しかし、本物には独特の質感・触感があり、年月を経ることで風格を増すのが天然素材ならではの魅力です。

最近では栃木県の大谷石、兵庫県の高山石、岡山県の北木石や万成石など、国内産石材も再び注目され始めています。魅力を伝える石屋としての矜持が求められると感じています。

建築石材業界の業界団体として、会員内外を問わず、石材業界の情報交流や連携に努め、石に関わる仕事の地位向上や課題解決の役に立ちたいと考えております。

読者皆様企業の一年の社運のご隆盛と、各位のご健勝ご多幸を心よりお祈りいたします。全国建築石材工業会を今年も宜しくお願いいたします。

(筆者) 関ヶ原石材(株)代表取締役会長/岐阜県不破郡関ヶ原町2682)